

『陸前高田市の被災から復興への道のり』

- ◆開催日時 2024年3月7日(木) 14:00~16:00
土木学会CPD認定プログラム(予定)
- ◆講師 津波被災地復興派遣 土木技術者 萩野良允(元 神奈川県県土整備部)
講演協力① 陸前高田市 戸羽良一理事<被災当初の壊滅的状况について>
講演協力② 清水建設 JV 山内義一元所長<ベルコンによる嵩上げ工法>
- ◆講演の概要

(1) 陸前高田市における東日本大震災の被害状況

2011年3月11日午後2時46分三陸沖を震源にマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、その後の大津波により人口2万4千人余の7%にあたる1,700人以上の住民の命が奪われ、その中には市職員の25%に及ぶ111名も含まれていました。その一方、当時小中学校にいた児童・生徒の全員が避難して無事でした。最大浸水高17.6mの大津波は、市内北部の高台を除き湾岸から平地部に広がる市街中心部のほとんどを呑み込み、市庁舎をはじめ、中央公民館、体育館、図書館などほとんどの施設が被災し、市としての機能は壊滅状態になりました。そのような中で、市は住民とともに復興の理念を共有しつつ2011年12月には復興計画をたて新しいまちの基盤づくりを始めました。

(2) 復興計画・復興に向けた取り組み

①防潮堤の建設…高田松原の復活 ②市街地の嵩上げと土地区画整理事業…約12mの嵩上げ工事 ③高台への移転促進 ④公営住宅の建設 ⑤道路・公共施設の再建…インフラの整備

(3) ゼロからのまちづくり…地盤嵩上げによる新しい中心市街地をつくる

大型ベルトコンベアによる大容量急速土運搬の実施

(4) 復興のシンボル<奇跡の一本松>と賑わいのまちへ

奇跡の一本松に代表される高田松原の再生に向けた取り組みとまちづくり

